

スポーツ・ツーリズムを通じた地域の活性化に関する研究

Research on regional revitalization through sports tourism

1255126 谷内 康洋

要旨

スポーツ・ツーリズムの効果について、多くの先行研究では主として経済的效果によってその評価がなされている。経済的效果が重要な評価指標として挙げられることは、当然の帰結と考えることができる。しかし、近年では経済的效果に加えて「社会的効果」についても議論がなされている。本研究では、先行研究の理論展開を応用し、地域が連携して学生チームのスポーツ合宿の受入れを行っている、土佐町及び黒潮町の住民を対象に質的研究を行った。調査は、アンケート調査、次にその結果を補完し受入に関わる地域住民に生じる心理的側面を深掘りするためインタビューを行い、その形成過程を明らかにしていくことで、地域住民にもたらす社会的効果の検証を行った。

その結果、「合宿受入による地域の評価」、「地域資源の活用」、及び「選手との関わり」が、社会的効果をもたらす重要な要素であることが明らかになった。

スポーツ・ツーリズムとは、「スポーツ資源とツーリズムとの融合を図っていく取組であり、スポーツを「観る」「する」ための旅行そのものや周辺地域観光に加え、スポーツを「支える」人々との交流である。スポーツを支える人は、彼らを迎え入れる又は誘致する側であり、スポーツ大会の開催や運営、合宿誘致や地域に密着したスポーツチームの支援を行う団体や行政、個人を指す。この団体や行政が連携し参加選手や関係者、観戦客の受け入れ態勢を整えることで、宿泊や飲食、交通などの産業に加えて、施設の整備、改修などから経済的效果がもたらされる。また、こうした活動が地域に根づいていくことで、地域住民同士のコミュニティの場づくりや、地域住民のやりがい、楽しさを生み出す源泉となる。さらには、選手との交流を通じて見慣れている地域の自然環境の価値の再認識や、自らもスポーツをしてみたい感情や行動の変化が生じるのが特徴である。

土佐町は、さめうら湖を地域活性化の拠点として、その活動を担う土佐町スポーツコミッションを設立し、学生のスポーツ合宿誘致を行うとともに、その支援を地域住民に依頼した。地域住民は、受入を通じて地域コミュニティの形成をより強固なものにするとともに、学生たちに食や文化など地域が評価されることや、学生達との会話など学生との関わりを持つことで、やりがいや楽しさ、頑張っている学生を応援する気持ち、地域のアイデンティティの醸成がなされた。黒潮町では、土佐西南大規模公園を核としたスポーツを通じた街づくりなどを進めてきた結果、地域住民が廃校跡地の集落活動センターを宿泊施設として運用し始め、地域で経済が循環する仕組みが生まれた。

人口減少・少子高齢化が進行するなか、地域活性化の新しい形として、地域資源を生かした地域ならではのスポーツ・ツーリズムの取組が広がることを期待する。